



不換紙幣の理論 (第一号、第二号)
通貨論 第十四編、内第二号
ウカール氏著



114
A 1122
3



イテニ論シテ曰ク
ヤスタ、ウエルソン氏ハ其著述ニフ
ラクト、カール、シースト題セル一
小冊子中第九

凡ソ交換ノ媒介タル物ハ其真義上ヨリ論スレハ実ニ
虚價ヲ代名スルニ是レ過キサルモノナリト
凡ソ交換ノ媒介物ニ相当スルモノハ仮令ニ想像物ニ
セヨ又ハ真ニ実物ニセヨ其何レニ関ヤス到底其物ハ
物ノ量器タル虚價ヲ以テ萬般諸物ヲ量ルノ用ニ足ル
以上ハ所謂蛮野ノ世ニ行ハレタル品物交易ノ餘習ニ
過キサル而已

凡ソ交換ノ媒介タル物ノ其代名スルノ大小多少ヨリ
恰モ吾人カ風ノ向フ所ニ從テ能ク我船舶ヲ東西スル
ノ域ニ達シタルノ熟練ヲ表スルモノナリト

大正十一年四月
鬼頭悌二郎 贈

六歳

以上グロイヤスタウエルソン氏ノ説ク所ニ依テ觀シハ
交換ノ媒介タル物ハ恰モ聖人ノ如ク其肉悉ク去ルノ時
ニ於テ初テ完全整備ノ域ニ至ルモノトナスニ似タリ
グロイヤスタウエルソン氏ハ猶ホ亦同書同「ベイヂ」ニ論
シテ曰ク

抑モ「ゴールド」ナル語ハ原トソレヲ産出セシ國ニ於
テ貨幣ニ付与セシ名称ナリ蓋シ吾人ハ貨幣ノ事ヲ談
スルニ当リ「ゴールド」ト唱フルノ平易ナルハ他者ニ優
ル萬々ナルヘシサヲハトテ吾人カ己ニ世上ノ能ク知
了セル「ベイヂ」紙幣ナル語ヲ組成ス程ニ能ク文法ニ
依リテ右ノ「ゴールド」ナル語ヲ組成スノ「ハ毛頭」之レ
ナク又實ニ然ラザルナリト
其四十四「ベイヂ」ニ曰ク

凡ソ尺度ノ黃銅若クハ象牙カ其寸尺ニ取リテ必ラス
シモ此二者ニ限ラズト雖モ其他何ゾノ物ヲ代用スル
モ妨ケナキカ如ク矢張「ギニー」貨ヲ鑄造スルニモ金ニ
アラサレハ不都合ナルニアラス其他ノ物ヲ代用スル
モ莫モ不可ナキナリト

其第四十八「ベイヂ」ニ曰ク

凡ソ紙幣ハ其表面ニハ「仮令」一「ポンド」トアリニ「ポ
ンド」トアルトモ其物ハ唯、虚價ニスラ過キサルカ故ニ金
貨ニ對照比較スレハ其價格ハ金貨ノ價ヨリモ却テ終
始同一ナリト

其第四十九「ベイヂ」ニ曰ク

紙幣一「ポンド」ノ虚價ハ定量ノ金貨若クハ銀貨ノ價ヨ
リモ却テ遙ニ其價格ヲ終始同一ニスルアルヘシト

其第百十六七ノ両「イデ」ニ曰ク

余曾テ実務家ノ言ヲ聞クニ凡ソ尺度ノ十尺ハ變動ニ
流レ易キモノナリ其然ル所以ノモノハ其寸尺ハ黄銅
象牙ノ二者ニ依リテ以テ人目ニ明示セラル、モノナ
レバナリト云々

是レ此僅々タル寸尺ノ代名スヲ以テ吾人カ誤解スル
ノ太シキヲ証スルモノナリ蓋シ天地自然ノ理アリテ
以テ凡ソ萬般ノ事物皆必スシモ此実務家ノ言ノ如ク
ナラサルモノナリ蓋シ吾人今右ノ黄銅象牙ノ両者ヲ
変シテ白金ヲ代用スルモ不可ナカルヘシサレハ必ス
シモ右ノ両者ニ限ルニアラス白金ヲ代用スルモ猶ホ
一寸ハ一寸一尺ハ一尺ニシテ毫モ変更アルヲナシ凡
ソ尺度ハ其性質上ヨリ論スレハ實ニ純乎タル虚物ナ

リト

「グロ」セスタ、ワエル、^ン氏ノ所論ハ以上ニ略陳スル
カ如シ又「バル」シバル、エリオット^ト氏ハ其著述「オブセル
ベエ」トシヨンス、イン、フハラシ、オフ、ゼ、ソツポースド、
デフレシエーション、オフ、ペエ、パート^ト題セル小冊子中
ニ左ノ數言ヲ陳セリ其文ニ曰ク

凡ソ千種萬般何物ヲ問ハスソノ物自ツカラニ含蓄
固有ノ物質在リテ以テ現ニ實價ヲ備フル物ハ其物
コソ必ラス價格ノ昇降變動スルアルヲ免レサルモ
ノナリ是レ凡ソ品物ノ何タルヲ論ヤス其生産ト需
求ト多寡増減如何ニ因ルモノニシテ實ニ天下普通
ノ通法ニ因リテ然ルナリト
又曰ク

凡ソ萬般物品中其價格ノ昇降變動スル
其物自ツカラニ實價ヲ備フルニ是レ因ハト
蓋シ理論上ニ於テハ奇々怪々ノ説タルニ似タレド
實際上ニ於テ其事ノ真ニ然ルハ間然スル所ナキナ
リサレハコソ凡ソ諸貨幣中ニアリテ其價格ノ變動
昇降スルナキモノハ獨リ想像貨幣ノ在ル而已其然
ル所以ノモノハ他ナシ抑モ想像貨幣ナルモノハ其
物既ニ實體ノ在ルナケレハ固ヨリ價格ノ變動昇降
スヘキ物貨ヲ備ヘサレハナリト
「ロールド、ロイデル、デイル」氏ノ言ニ曰ク「ベルシバ
ル、エリオット」氏ノ所論ノ如クナラハ有名無實ノ
兵モ亦傷ヲ負フニ恐レナキ便益アリト云フト同
一轍ナル而已ト

凡ソ以上「グロイヤスタ、ウエルソン」并ニ「ベルシバル、エ
リオット」兩氏ノ所論ニ何レカ信何レカ偽ナルカヲ判
別論辨スルハ左マテ有用ニアラサルヲ以テ今又別ニ
爰ニ贅セス
凡ソ紙幣ヤソノ物ハ唯僅ニ國王ノ意中ヨリ出テ、發
行流通スルニ至リタルニ若クハ又ソノ物ニ何等ノ實
價ヲ備フルノ有無等ニ関ヤス人民一般ニ異儀ナク之
レヲ授受スルモノタルニ免ニ角紙幣ナルモノハ以テ
萬般交易ノ媒介物トナルニ足ルヲハ余輩己ニ之ヲ前
文ニ開陳ヤリ而シテ又金銀貨ノ通用額ニ應シテ其發
行高ニ制限ヲ設ケ夫レヨリ超過スルヲ勿ラシムルニ
ハ又以テ紙幣ハ其相場ノ下落ヲ來スヲテク依
テ常ニ異ナル所ナキヲハ是亦余輩カ業ニ

述ヤシ所ナリ

以上ノ外猶ホ余輩ハ更ニ一言ヲ陳シテ以テ諸經濟家ノ所論ニ依レハ仮令セ紙幣ヤソノ物ハ其物自カラニ價格ノ在ルナシト雖モ猶且ツ萬般諸品ノ相関スル價格即チ萬般諸品對照ノ購買力ヲハ口ニ發シ書ニ述ルノ用ニ足ルヲモ論了シ置キタルナリ
以上引用ヤシ諸經濟家カ金貨ノ如キ其物ニ含蓄固有ノ物質ヲ備フル品物ヲシテ右ノ如キ標準タラシムルハ凡ソ延期ノ諸仕拂上等ニ其結果ヲ及ホス所至正至公完キヲ得ル能ハサルヲ主張スルノ其當ヲ得ルモノタルハ毫モ疑ヲ容レザルナリ此才論者ノ言ニ曰ク其結果斯ノ如クナレ所以ノモノハ他ナシ仮令セハ金貨ノ如キハ其生産費ノ變動如何ニ由リテ以テ其價

格或ハ昇リ或ハ降リ平素一定不動ナルモノニアラサレハナリト然ルニ若シサナキハ亦借主ハ以テ拂ヒ貸主ハ以テ受取ル金屬中ニ含蓄スル一定ノ分量或ハ損傷シ或ハ破壊スル等ニ由リテ以テ其價格ニ昇降ヲ生スレハナリト論者ノ此言實ニ至當ノ論ナリ
凡ソ金銀貸借上ノ契約ヲ締結ヤシ仲間ノ内貸主ノ方ニテモ若クハ借主ノ方ニテモ金銀産出費ノ變動如何若クハ分量ノ損傷破壊ノ如何オニ是レ由リテ以テ其價格ニ昇降ヲ生スルヨリシテ招ク所ノ損害ハ唯ニ僅小ニ止マラサル而已ナラス猶且ツ大ニ甚シキモノアリ又時宜ニ依リテハ之レカ為メ産ヲ破リ家ヲヒボムノ太シキニ至ルナキヲ保セサルハ凡ソ何人ニ
古今貨幣ノ來歴如何ヲ視察シ併セテ金銀

多寡増減如何ヲ熟知ヤシ者ノ皆認許スル
奇々怪々ノ色付キタル紙片ニシテ付スルニ
以テシ難キ一貨幣ニテアリナカラ萬般交易ノ媒介
ルノ用ニ膺リ又千種萬品ノ對照セル購買力ヲハ口ニ
發シ書ニ迷フルニ足リ随テ亦諸物價ヲ量ルノ要務ヲ
遂ルニ足リ猶ホ夫レ而已ナラズ延期ノ諸仕拂上ノ本
位トナリテ以テ借主萬般ノ借財ヲ一定スルニ足ルト
セハ字内萬國ノ文明國ニ於テ斯ル貨幣ヲ採用擧行セ
サルハ抑モ何故ナルソヤ又目下礦山ヨリ金銀ヲ産出
スル為メニ費ス所ノ巨萬ノ資財許多ノ勞役ヲ轉シテ
斯ノ如キ業ヨリモ一層速ニ生財ノ效驗アル職業ニ用
ヒテ以テ凡ソ人生ノ健全安慰幸福ノ三者ヲ増スモノ
ヲ務メサルハ抑モ何故ナルソヤ是レ此問題ニ答フル

ニハ宜シク不換紙幣ノ來歴如何ヲ一見セハ今爰ニ即
答スルヨリモ一層明瞭ニ應答スルヲ得ヘキナリ然リ
ト虽モ先ツ余輩ハ此不換紙幣ノ一性質ニ付少シク
論及スル所アルヘシ蓋シ其之ヲ知ルハ不換紙幣ノ來
歴沿革如何ヲ解スルニ必要ナレハナリ
凡ソ不換紙幣ナルモノハ原ト交換紙幣ノ壞廢衰頽シ
テ初メテ成リシモノモ其例一二ノ在ルアリト虽モ今
本編ニ余輩ノ論スルモノハ政府ヨリ御威光ヲ以テ發
行ヤシ紙幣ニシテ其紙幣タル最初發行ノ節ニハ法令
ヲ布キ其力ニ由リテ以テ之ヲ流通ヤシメ其流通如何
ハ大ニ法令ノ勢力如何ニ是レ由ルモノニ限リテ論
立ツルコトハ已ニ前文ニ陳言シ置キタリ
抑々斯ル發行紙幣ハ其之ヲ發行セシ政府

大

限テ通用スル而已ニシテ所轄外一步ヲ

早通用セサルハ業已ニ以上ニ縷述シタル所依リ

テ一目瞭然タルハ論ヲ族タス

夫レ然リ然ラハ流通ニ制限アルト海外ニ輸出セサル

ト此二者ハ實ニ此発行紙幣ノ本質ト視做スモ不可ナ

カルヘシ實ニ此本質ハ是レ此発行紙幣ノ絶妙中ノ一

妙事ト視做スノ論者決シテ小々ナラス試ニ一例ヲ舉

テ之レヲ証セハ佛ノ「ジョン、ロート」ノ如キハ凡ソ何國ノ

民タリ且佛國發行ノ紙幣ヲ佛國ヨリ引去リ能ハサル

トヲ公言セシトアリタリ

今ヨリ前千七百七十九年第九月十三日歐洲大陸ノ會

議ヲ以テ普ク人民ニ公言シテ曰ク請フ左ノ事ヲ心ニ

記セラレヨ凡ソ紙幣ナルモノハ其物自ツカラニ翼ヲ

附ケテ以テ遠クト邦ハ飛去リ能ハサル貨幣ノ一種ニ

止マルトヲ

又曰ク

サレバコソ凡ソ紙幣ナル者ハ依然トシテ吾人ト共ニ

國內ニ止マリテ平素世上ニ轉傳流通スルアリ隨テ人

々ノ所有スル所トナリテ以テ萬般通商ノ用途ニ供シ

又諸稅上納等ノ用ニ充ツルモノトナス而シテ亦凡ソ

何人ニ限ラヌ業ヲ務メ職ヲカムル者ハ紙幣ヲ得テ以

テ其所有トナシ得ルト

「ドンカン」氏ハ其學校教科用「オン、カドレン」シイト題ヤ

ル書中第二十八「メイヂ」ニ論シテ曰ク凡ソ何レノ土地

何レノ邦國ヲ問ハス苟モ獨立國ニ於テハ其國ノ地產

般用途ニ充テル為メ其領分内ニ合法貨

テハテ凡ソ民間相互ノ私債取引等ハ勿論

ヲ拂入ル、ノ用ニ供スヘキノ権アルモノナリ、

又曰ク

凡ソ斯ル合法貨幣ハ其物ニハ實價ハナケレバ唯僅ニ
約束ノ價ヲ備フルアル而已夫レ此約束ノ價ナルモノ
ハ乃チ其紙幣ヲ發行セシ國ノ御威光ヨリ據テ来リタ
ルモノナリト云々

又曰ク

此合法貨幣ハ之レヲ發行セシ國ノ領分内ニ止マリテ
平常ニ流通スル夫レ斯ノ如ク慥ナレハ蓋シ此合法貨
幣コソ一種特別ノ貨幣トアリテ以テ凡ソ國內限り萬
般金錢ノ貸借其他賣買取引ノ用途ニ供スルニ足ルヘ
シト

又「ウエルス氏ハ其著述「ロビンソン、クルウツース、モニ
ト題ヤル論文中ニ「ノレイブル、ダブリユー、デ、ケレ
イ氏ノ著書ヨリ左ノ數言ヲ引用シ矢張「ドンカン」氏ト
同論ナリケリ其文ニ曰ク

凡ソ當米國ノ海洋ヲ超ヘ外邦諸國ニ至リテハ幸ニ我
ガリエンベツキ紙幣ハ通用貨ニアラス夫レ然リ然リ
ト虽凡ソ吾人ハ此輸出ノ用ニ供スヘカラサル紙幣
ヲ發行流通マシ以來ノ如キ連綿長久タル繁榮ヲ未タ
曾テ商業上ニ視シテアリシヤト

猶亦「ウエルス氏ハ曾テ千八百七十五年第九月「エツチ
シ、カレイ」氏カ「オーレイブル、エム、ダブリユー、フキル
氏」ハ寄送セシ信書ヲ其論文中ニ引用セリ其文ニ曰ク
凡ソ我々米人ハ我々米國一般ニ對シテノ義務ニ

又他字内諸國ニ於テモ抑モ輸出用ニ供スハカラサ
紙幣ヲ連綿久シキニ保持シテ止ムナキヲ欲スハカ否
ヤト云々

又曰ク

此紙幣發行ノ止ムヘカラサルヲハ能ク文明諸國數年
ノ實地ト經歷トノ兩者ト符合シ併ヤテ亦真正明確ナ
ル經濟ノ道ト能ク符合スルモノナリト
凡ソ紙幣ナルモノ、斯ノ如ク輸出用ニ供スヘカラサ
ルノ實事ハ以テ其物ニ左ノ一大性質ヲ備フルモノナ
リ其性質トハ他ニアラス余輩カ己ニ前文ニ開陳シ置
キタル法理ノ自ツカラ天地ノ間ニ在ルアリテ以テ金
銀貨ナレハ凡ソ字内萬國諸邦、其貿易上需用ノ多寡
増減ニ應シテ以テ配分セラルヘキモノナレド不換紙

幣ノ高ハ此法法理ニ依リテ制ヤラル、ヲナキト是レ
ナリ

凡ソ字内萬國何レノ土地何レノ邦國ヲ問ハス金銀ノ
両貨幣ナレハ苟モ其高ノ超過スルヲアレハ(猶更ニ其
意ヲ詳約ヤハ金銀両貨ノ供給却テ需求ヨリモ多クナ
リテ目下現ニ貨幣ヲ用ヒテ以テ日常萬般ノ交易ヲナ
スアルモ到底其國ノ諸品物、其輸送ノ諸雜費トシテ
相当ノ割合ヲ引去リタル上他諸國ノ諸品物ト平價ノ
取引ヲナスヘカラサル程ニ至ルヲアレハ)忽チ其國ハ
諸品物ノ輸入アルニ至リ其國ヨリ立刻ニ金銀貨輸出
アリテ以テ遂ニ平準ヲ復スルニ至ラシムルモノナリ
トハ余輩カ己ニ前文ニ論辨セシ所ナリ
金銀両貨ノ如キニアリテハ實ニ右ニ論スル所ノ如ク

夫レ然リ然ルニ余輩カ令爰ニ論スル所ノ通貨乃チ不
換紙幣ノ如キニ至リテハ其高ノ超過ヲ救済スルノ法
猶ホ此金銀ノ両貨ニ於テルカ如キモノ在ルナシサレ
バ不換紙幣ナルモノハ苟モ超過ノヲアレハ随テ其價
ノ下落スルヲ見ルモ亦宜ナラスヤ
彼ノ地金報告ノ編者等ノ言ニ曰ク若シ發行スル所ノ
モノ不換紙幣ヲハ諸物價擧ケテ騰貴スルナルヘシ
苟モ一度其騰貴ヲ来スルハ蓋シ一大商業國ニ於テ投
機ノ業冒險ノ策陸續踵ヲ接シテ止マサラン限リハ際
限ナキヤ亦未タ知ルヘカラスト

